

平成31年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝(6:00から9:59時まで)、昼(10:00から13:59まで)
 夕方(14:00から17:59まで)、夜(18:00から21:59まで)、
 深夜(22:00から1:59まで)、早朝(2:00時から5:59まで)

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所(鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
1	1	21:14	夜	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	鍋の空焚き	3階一室台所で飲酒した居住者が調理中に居眠りをした際、鍋から発生した煙で住警報器が作動し、隣接居住者がその警報音に気づき119番通報した。消防隊の活動等による物音で居住者が眠りから覚め、火災に至らなかったものである。
2	1	8:30	朝	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	鍋の空焚き	居住者が鍋に火をかけたことを忘れてしまい煙が発生。その後、住宅用火災警報器が発報、居住者により鍋に水が入れられ消火に至る。通報については近隣住民により消防機関へ通報されたものである。早期に鍋の空焚きを発見することができたため、火災には至らなかった事例である。
3	1	20:10	夜	共同住宅	煙	台所	寝室	たばこ	居住者	たばこの消え残りの火種が堆積していた吸い殻に着火したもの。	この日に限って水を使用せずにたばこを消し、吸い殻を灰皿に積んで外出。帰宅したところ、玄関で住宅用火災警報器の鳴動を確認。居室内が白煙で充満し、台所付近から立ち上がる白煙を確認したため、近くにあった食器を用いて水をかけて消火。通報者は、仕事から帰宅し共同住宅の2階の自室に入ったところ、異臭と若干の煙たさを感じている。自室を確認後共用部分の通路に出たところ住宅用火災警報器の微かな鳴動を聞き、鳴動箇所を確認するも特定できず、管理会社も不在であったことから119番通報に至る。
4	1	13時50分頃	昼	アパート・マンション等	煙式	台所	就寝室	こんろ	隣人	鍋の空焚き	居住者は片手鍋に牛乳を入れガステーブルにて加熱していたことを忘れ、同共同住宅の隣に住む息子の部屋に向かう。その後、焦げた臭いと住宅用火災警報器の音に気付いた息子が廊下に出ると、隣の玄関ドアから煙が出ていたため消防へ通報した。消防隊が当該居室を見分けると、ガステーブルの上に内容物の牛乳が焦げた片手鍋があり、ガステーブルの火は安全装置が作動し消火されていた。
5	1	16:23	夕方	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	鍋の空焚き	居住者が、台所のIHクッキングヒーターで蕎麦を茹でたまま入浴。鍋の中のゆで汁が蒸発し、蕎麦が炭化したことにより煙が発生。台所に設置してある住宅用火災警報器(煙式)が鳴動したことにより、2階の同居者が警報音に気付き、IHクッキングヒーターのスイッチを切り火災には至らなかったもの。
6	1	11:00	昼	戸建住宅	熱式	居間	その他(居間・不明を含む)	その他(不明を含む)	居住者	使用済みのマッチを書類とゴミが入ったゴミ箱に捨てその場を離れたことにより、残り火が書類等に引火し煙と炎が発生したもの。	1階厨房(出火場所の直下部分)にて作業中の居住者(妻)が住宅用火災警報器(非連動型)の鳴動を確認、鳴動している2階居間(事務室として使用)のドアを開けたところゴミ箱から煙と炎が発生していたため、粉末消火器にて初期消火を実施、消火したもの。その後消防へ通報した。